

平成 26 年度
事業報告書

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

社会福祉法人 清光園

1. はじめに

平成 26 年度は、幅広い福祉課題や生活課題に対応することに主眼を置き取り組んできました。特養ではケアマネジャーを増員してユニットに配置しました。生活相談員は地域の相談窓口としての役割を担ってもらいました。これにより入居者や家族、地域住民のニーズにきめ細やかに対応できる仕組みができたと思っております。また、現在 2 名の職員が南清水沢在宅サービス推進委員会の一員となり、地域ニーズの把握に努めているところです。

平成 26 年度より生活困窮者対策や人材確保対策の一環として、修学資金貸付制度を創設しました。介護福祉士養成学校への進学者もここ数年減少しており、恒常的に人材不足が懸念される場所ではありますが、今回 2 名がこの制度を活用され、栗山介護学校へ通われております。

サービス向上を図る上で、社内研修を増やし職員の教育を徹底しました。これらの取り組みの甲斐あってか、特養ではユニットリーダー研修実地研修施設に合格することができました。このことは、私たちが行っているサービスが一定以上の高い評価を得たものと思っております。

グループホームは、利用料を見直し居住費と光熱水費を値下げしました。これにより低所得者層の方も少しは入居しやすくなったのではないかと思います。

人員配置の問題から、デイサービスは、定員数を 15 名から 10 名に減少し、居宅介護支援事業所は 3 名体制から 2 名体制へ変更しました。

以上のように当初計画を変更せざるを得ない中、サービス活動の収益は前年度とほぼ横ばいで終えました。

事業運営の安定化を図るために、借入金の金利を見直し、福祉医療機構から北洋銀行への借換えや、北海信用金庫からの借入金の返済期間を延伸しました。

法人運営については、一層のコンプライアンスの向上や情報開示に努めるなど、社会福祉法人としての役割を認識し、経営の質を向上することができたと思っております。

各事業所をご利用の皆様や地域の皆様、行政の各機関、関係事業者団体、そして貴重なご寄付をいただいた皆様に心より御礼を申し上げます。また、すべての職員にも感謝の意を伝え、平成 26 年度事業の概要報告とさせていただきます。

特別養護老人ホーム 清光園
施設長 小田 島 英 憲

2. 理事会・評議員会の開催状況および監事監査等の実施状況について

(1) 理事会

回	期日	主な議決事項	出席者
1	H26.5.23 (金)	①平成 25 年度事業報告について ②平成 25 年度決算報告について ③創立 40 周年準備委員会の委員の選出について ④借入金の借換えについて ⑤理事長の実務状況報告 ⑥監事監査報告	理事 7 名 監事 2 名
2	H26.8.1 (金)	①就業規則の見直しについて ②デイサービスすずらん定員の見直しについて ③理事長の実務状況報告 ④監事監査報告	理事 5 名 監事 2 名
3	H26.10.10 (金)	①役員及び評議員の改選について ・理事の選任について ・監事の選任について ・評議員の選任について	理事 7 名 監事 2 名
4	H26.11.18 (火)	①代表者の選任について ・理事長の選任について ・常務理事の指名 ・理事長の職務代理者の指名 ②グループホームまどかの料金改正について ③平成 26 年度上半期事業報告 ④理事長の実務状況報告 ⑤監事監査報告	理事 7 名 監事 2 名
5	H27.1.30 (金)	①「グループホームまどか」借入金返済計画の変更について ②「居宅介護支援事業所」事業所の移転について ③事業実施中間報告 ④理事長の実務状況報告 ⑤監事監査報告	理事 7 名 監事 2 名
6	H27.3.27 (金)	①役員及び評議員の旅費について ②給与規程の改定について ③夕張市移住支援制度 (案) について ④平成 27 年度事業計画 (案) について ⑤平成 27 年度予算 (案) について ⑥理事長の実務状況報告	理事 7 名 監事 2 名

(2) 評議員会

回	期日	主な議決事項	出席者
1	H26.5.23 (金)	①平成 25 年度事業報告について ②平成 25 年度決算報告について ③理事長の実務状況報告 ④監事監査報告	評議員 12 名 監事 2 名
2	H26.8.1 (金)	①デイサービスすずらん定員の見直しについて ②理事長の実務状況報告 ③監事監査報告	評議員 10 名 監事 2 名
3	H26.10.10 (金)	①役員を選任について	評議員 13 名 監事 2 名
4	H26.11.18 (火)	①グループホームまどかの料金改正について ②平成 26 年度上半期事業報告 ③理事長の実務状況報告 ④監事監査報告	評議員 13 名 監事 2 名
5	H27.1.30 (金)	①「グループホームまどか」借入金返済計画の変更について ②「居宅介護支援事業所」事業所の移転について ③事業実施中間報告 ④理事長の実務状況報告 ⑤監事監査報告	評議員 14 名 監事 2 名
6	H27.3.27 (金)	①平成 27 年度事業計画 (案) について ②平成 27 年度予算 (案) について ③理事長の実務状況報告	評議員 監事 2 名

(3) 監事監査

回	期日	主な監査実施項目	出席者
1	H26.5.23 (金)	①平成 25 年度各会計決算状況について ②預り金の管理状況について ③会計監査・業務監査	監事 2 名
2	H26.8.1 (金)	①平成 26 年 4 月～6 月までの各会計執行状況について ②預り金の管理状況について	監事 2 名
3	H25.10.30 (金)	①平成 26 年 7 月～9 月までの各会計執行状況について ②預り金の管理状況について	監事 2 名
4	H27.1.30	①平成 26 年 10 月～12 月までの各会計執行状況について ②預り金の管理状況について	監事 2 名

(4) 社会福祉施設に係る指導監査及び実地指導

期日	主な検査項目	出席者
H26.9.12 (金)	①老人福祉施設運営管理・施設入所者処遇	理事長 理事 1 名 監事 2 名

(5) 創立 40 周年記念準備委員会

回	期日	検討内容	出席者
1	H26.6.23 (月)	①委員会の開催スケジュールの確認 ②記念誌作成スケジュールの確認 ③記念式典のスケジュールの確認	理事長 理事 2 名 監事 1 名 職員 7 名
2	H26.9.22 (月)	①記念誌の基本コンセプト、頁数、発行部数について ②史料収集と整理 ③原稿作成と原稿依頼について ④業者の選定と予算について ⑤記念式典の日程について	理事長 理事 2 名 職員 7 名
3	H26.12.22 (月)	①記念誌作成及び記念式典について ②祝賀会の日程：平成 27 年 11 月 1 日 (日) ③記念誌の業者選定～見積もり合わせ～アマノ印刷に決定する。	理事長 理事 2 名 評議員 1 名 職員 6 名
4	H27.2.20 (金)	①記念誌作成について ②記念式典・祝賀会について ③記念品について ④平成 27 年度予算案について	理事長 理事 2 名 評議員 1 名 職員 6 名

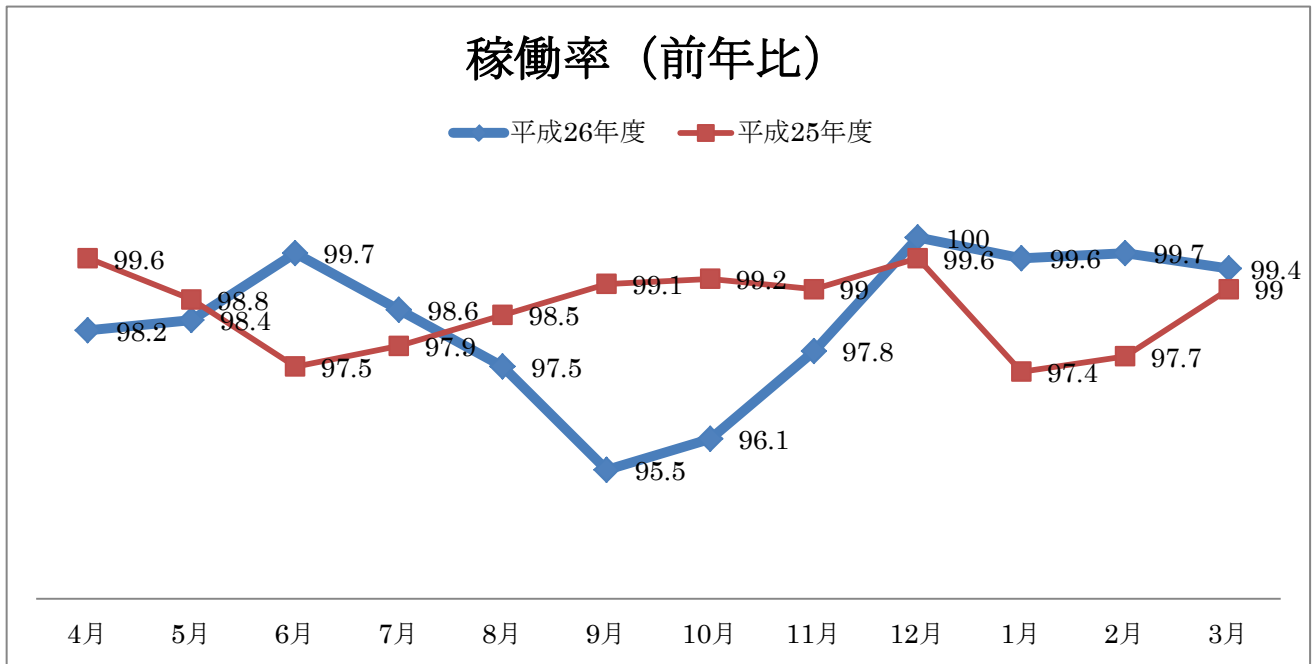
3. 職員（平成 27 年 3 月 31 日）

役職種		本部	清光園	デイ	GH	居宅	共同住宅
施設長			1				
副施設長			1				
事務員	正職員	1					
	臨時職員	3					
生活相談員・CM・管理者			8	2	2	2	兼務 2
生活相談員	臨時職員		1				
介護職員	正職員		36		2		
	臨時職員		31	3	14		
	アルバイト		5				
看護職員	正職員		5				
	臨時職員			1			
管理栄養士			1				
機能訓練指導員			2				
施設管理		1					
用務員	臨時職員						
夜間当直員	臨時職員		5				
		5	96	6	18	2	兼務 2

- ・職員総数・・・127 名（正規職員 62 名、有期契約職員 65 名）
- ・新卒採用・・・4 名（栗山介護学校 3 名、夕張高校 1 名）
- ・中途採用・・・11 名
- ・自己退職・・・12 名
- ・定 年・・・3 名

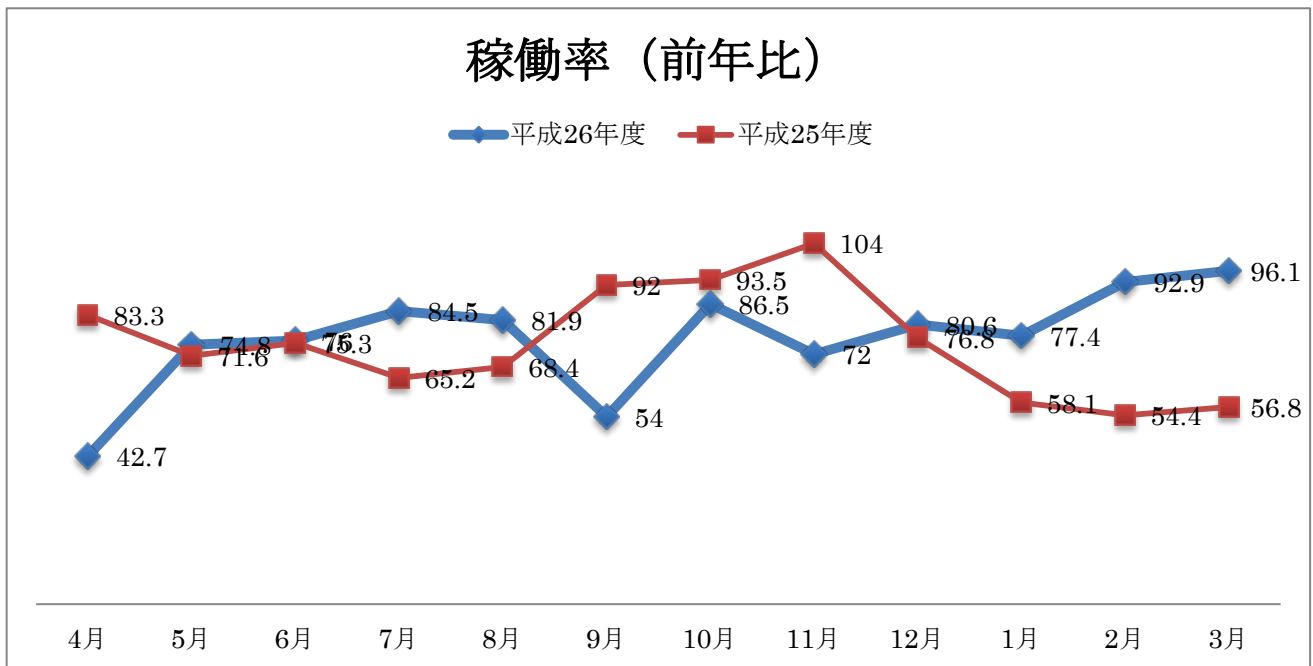
4. 入居部門事業報告

(1) 特別養護老人ホーム清光園実績



	施設介護料収入	平均稼働率	平均要介護度	平均年齢
平成 26 年度	364,135,455 円	98.4%	3.7	86.8 歳
平成 25 年度	365,156,420 円	98.6%	3.8	86.4 歳

(2) 清光園短期入所生活介護実績



	居宅介護料収入	稼働率	平均要介護度	平均年齢
平成 26 年度	13,064,470 円	76.6%	2.2	85.8 歳
平成 25 年度	12,559,250 円	74.9%	2.1	88.6 歳

(3) 特別養護老人ホーム清光園の重点目標（副施設長 佐藤かなみ）

① ユニットリーダー研修実地施設へ向けての取組み

各グループ、ユニットで選定調査表を活用し、ユニットリーダーが中心となり勉強会を繰り返した。更に調査員研修修了者が各ユニットをラウンドし生活環境の改善を重ねた。三年前は 34 点だった評価が3月の実地調査では 82 点を獲得し北海道6番目、空知管内では初のユニットリーダー実地研修施設となった。27 年秋には、第一回目のユニットリーダー研修受講生を受け入れることになる。しかし、まだまだユニット間の差もあり自施設の弱い部分も明らかである。引き続き、ユニットケアを推進し、「個別ケア」の実践に取り組んでいく。

② 利用者本位のサービスの実践と人材育成

各グループにケアマネを配置し、入居者のニーズに応える個別支援計画の作成に取り組んだ。サービス担当者会議では、本人はもとより家族の参加も増え、家族とより近い関係ができた。

認知症に関する専門知識の習得を目的に、認知症実践者研修に 5 名の職員を参加させた。しかしながら、まだまだ実践に活かされていないのが現状である。27 年度は 5 名の職員を認知症実践者研修へ参加させるほか、認知症の専門的会議を開催し、認知症への理解を深めていく。

チームリーダー 5 名がアセッサー（評価者）資格を取得した。今後は、この資格を活かして職員の「出来る技術」の向上につなげていきたい。

③ 地域ケアの実践

南清水沢老人クラブや陽光入居者をはじめとする地域の方々との交流が増えた 1 年であった。各種ボランティアの方々には、行事に参加していただき協力を得ることができた。また、地域の学校行事には、入居者が参加するなど、これまでと変わらず交流することができた。

また、南清水沢在宅サービス推進委員会の定例会議に職員が出席しており、地域で暮らす一人暮らしの高齢者の状況や、民生委員の活動状況について情報交換をさせてもらっている。そんな中、清光園で一人暮らし高齢者の食事会を開いたり、介護保険に関する勉強会を開催したりした。

今後は、地域交流センターにカフェスペースを設置して、気軽に立ち寄れる場の提供や、生活リハビリ、栄養管理、口腔ケアなど各種勉強会など開催し、清光園が地域住民にとってより身近な存在となるように取り組む。

④ 社会資源である施設の有効活用を目指し、稼働率を特養 98.5%以上、短期 75%以上とする

特養は、9 月に入院者 4 名と退去者 5 名が重なり、稼働率が 95.5%まで低下したが、市内外の関係機関へ働きかけ、待機者を確保することができた。結果、12 月から稼働率が 99%を超えた。

短期は、中重度の要介護者や、認知症で一人暮らしの要介護者の利用が増加したことで稼働率が上昇した。

(4) 委員会活動

委員会	主な活動内容
衛生委員会 (委員長 小田島英憲)	<ul style="list-style-type: none"> ・業務災害3件(作業中の腰痛1件、作業中の骨折2件) ・ストレス度のセルフチェックを実施～何らかのストレスを抱えている職員が70%超。 ・ノー残業デーの実施～ストレスチェックの結果を受け、毎月1日から10日をノー残業デーとして定めた。 ・介護負担軽減のための福祉用具の選定～電動爪やすり、バスボード、車椅子等を購入した。 ・ロボット介護機器展示説明会への参加 ・9/25、2/12、職員健康診断の実施 ・10/13～17、腰痛予防研修会の実施～講師：花田(理学療法士) ・12/18、メンタルヘルス研修会の実施～講師：橋本産業医
研修委員会 (委員長 小田島英憲)	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回開催 ・研修計画の策定 ・内部研修の評価・再検討 ・社内研修は全職員が参加できるように数日間にわたり研修を行った。講師役を務めた職員は、苦勞したようだが、伝えたいテーマや内容を自ら考え、資料を作成したことで、講師自身も力をつけたものと思われる。
入所判定委員会 (委員長 渡邊芳賢)	<ul style="list-style-type: none"> ・全7回開催し、待機者の優先順位を決定した。 ・平成26年度は28名入居された。
事故防止・苦情解決委員会 (委員長 渡邊芳賢)	<ul style="list-style-type: none"> ・事故・ひやりはっと件数は156件。うち、道や夕張市へ報告した件数は11件 ・苦情件数6件
身体拘束廃止委員会 (委員長 佐藤かなみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束「0」達成 ・委員会年4回開催 ・内部研修1回開催 ・入居者の人格を尊重し、全職員が身体拘束廃止に関して共通の認識と行動を持つように取り組んできた。特に「不適切なケア」については事例を上げるなどをして、気づかないうちに行う事がないよう、話し合いを繰り返した。高齢者が不適切な扱いにより権利を侵害される状態や生命、健康、生活が損なわれるような状態に置かれることは許される事ではないことを確認してきた。
給食委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・定例12回開催

<p>(委員長 浦川智美)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献立内容の意見、要望の集約 ・ 新メニューの考案 (あんかけ焼きそば、スパゲティなど)
<p>感染予防委員会 (委員長 松平壽枝)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会 2 か月毎 (奇数月) 定期開催。計 6 回開催した。 ・ 感染予防マニュアル・手順書の見直し ・ 感染予防手順書に沿ったチェックシートで、各ユニットの対策実行状況を評価 ・ 食中毒警報に伴う注意喚起 (6 月から 8 月で食中毒警報 15 回発令) ・ 感染症発生件数 0 件 ・ 冬季へ向けインフルエンザやノロウイルス対策 (物品準備や手順確認等) を進めている。 ・ 「ノロウイルスによる食中毒予防と嘔吐物の処理演習」の実施
<p>褥瘡予防改善委員会 (委員長 松平壽枝)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会は、2 か月毎 (偶数月) の定期開催。計 6 回開催した。 ・ 全入居者の日常生活自立度チェック ・ 褥瘡発生リスクを把握し、高リスク者に対し、予防ケア計画を作成・実施 ・ 褥瘡発生者の状況把握 ・ 各ユニット入居者情報の共有と意見交換 ・ 高リスク者は入居者全体の 41.8% ・ 褥瘡発生者は 0 人。 ・ 「車椅子シーティング」をテーマに内部研修を実施
<p>防災委員会 (委員長 佐々木稔)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7/18 日中想定 of 火災避難訓練の実施 ・ 10/14 夜間想定 of 火災避難訓練の実施 ・ 3/20 自然災害想定 of 避難訓練 ・ 災害時の地域支援について検討 ・ 災害時の食事提供について検討 ・ 利用者救助用の担架の購入検討

(5) 行事等実績

行事・慰問		教室・サークル	
6月7日	ゆうばり小学校 運動会見学	26名参加 町内ボランティア2名 学生3名 お天気にも恵まれ、盆踊りや綱引きなどに参加し、手作り弁当で楽しんだ。 現地でご家族や知人との交流もできた。	押し花教室 押し花サークルのメンバーがボランティア講師として教室を開催してくれている。
7月25日	夏のイベント 花火を楽しもう	53名参加 まどか16名参加 手持ち花火やドラゴンなどの花火とチョコバナナ・スイカ・綿あめ等も楽しんだ。	4月22日 34名参加 コースター作り 6月24日 32名参加 カレンダー作り 8月26日 33名参加 ランチョンマット作り
9月20日	清光園 秋のふれあい祭り	総勢300名ほどの来場者があり、まどか12名、すずらん3名 陽光6名参加 晴天に恵まれ、夕張太鼓、清陵保育園、空手、よさこい、下山民雄ショーと盛りだくさんの内容、今年は抽選会も行い、食券が売り切れるほどだった。また、初の試みとして園内で行っている料理教室、あみものサークルからも出店した。	11月25日 21名参加 年賀状作り 3月24日 22名参加 カレンダー作り
9月26日	物故者法要	本浄寺の住職来園し物故者法要を行った。	映画サークル 毎回、20～25名参加 5月7日 おくりびと 6月9日 テルマエロマエ 7月7日 余命一ヶ月の花嫁 8月4日 男たちの大和 9月8日 アナと雪の女王 10月6日 硫黄島からの手紙 11月4日 ラストサムライ 12月8日 テルマエロマエⅡ 1月13日 幸せの黄色いハンカチ 2月9日 トラック野郎 3月9日 座頭市
10月18日	全市音楽発表会 見学	9名参加 知人や子供たちとの交流もあり、一緒に口ずさみ、手拍子をし、涙ぐまれていた。	ドックセラピー リリアンドッグスクール代表 油屋様とホワイトシェパードが来園、2ヶ月ごとに入居者と触れ合う。 8月22日 30名 10月17日 32名 12月11日 36名 2月12日 43名
10月28日	ユーパロ幼稚園 お遊戯発表会	25名 家族18名 かわいい園児たちに目を細め、一緒に手拍子、体を動かし最後に握手	
12月15日	コール*リラ コンサート	42名参加 老人クラブ5名 陽光入居者3名 懐かしい曲や童謡などなじみ多い歌を披露頂き、最後は一緒に歌って楽しんだ。	
12月26日	清光園餅つき	48名参加 理事、監事 評議員5名 ボランティア5名、老人クラブ7名、陽光5名 皆さんでついたお餅であんこ餅とお供えを作り、お昼にはお雑煮とお汁粉を味わった。	
1月19日	清陵保育園児の 歌と踊りの披露	40名参加 老人クラブ6名 子供たちのお遊戯、歌などを笑顔、手拍子で楽しまれ、最後にみなさんと握手し触れ合う。	
3月19日	物故者法要	本浄寺の住職来園し物故者法要を行った。	
その他 各フロア毎			
2階フロア・・・生け花教室 3か月に1回 編み物教室 毎週木曜日開催			
3階フロア・・・料理教室 3か月に1回開催			
4階フロア・・・音楽教室 隔週金曜日開催			

(6) 内部研修実績

4月					
21~25日 5日間	理念研修パート1	講師:小田島 英憲施設長 清光園理念の言葉の意味を紐解き、理念達成のために厳守しなければならない行動規範(職業倫理)についてと清光園職場宣言の重要性について			
5月					
19日	権利擁護研修	講師:渡邊芳賢相談係長 高齢者虐待防止法が施行した背景、高齢者虐待の定義、防止する取り組み			
26~30日 5日間	看取りケア研修パート1	講師:松平 壽枝看護部長 特養における看取りケアの基本と基本的考え方と役割分担、亡くなる48時間以内に見られる状態について			
6月					
16~20日 5日間	認知症研修	講師:佐藤美加子チームリーダー 認知症委の方への接し方のポイントDVD 事例に沿って適切な対応方法			
23~27日 5日間	ユニットケア フォローアップ研修	講師:佐藤かなみ副施設長 ユニットケアに関する問題17問 文章()埋めに挑戦してもらい、終了後解説、ユニットケアの推進を図る			
7月					
7~10日 4日間	新人職員 フォローアップ研修	講師:佐藤かなみ副施設長 採用3か月以上たった新人職員7名対象に個人目標を設定しとる組んでもらう			
14~18日 5日間	基本的介護技術研修	講師:山崎・下村・竹田TL DVDをみながら基本的な体位交換の方法、ベッドから車いすへの移乗介助の確認、参考資料(ボディメカニクス)			
8月					
11~15日 5日間	摂食・嚥下障害 嚥下機能評価	講師:佐藤かなみ副施設長 嚥下運動の5つのステージを理解し、個々の入居者の摂食・嚥下障害の評価をしてもらい、適切なケア、訓練、口腔ケアを実施し、誤嚥予防につなげる			
10月					
14.16.17日 3日間	腰痛予防研修	講師:花田 隆機能訓練指導員 びっくり腰予防・職場における腰痛予防・具体的な予防の心得等			
20・22日 2日間	ノロウイルスによる 食中毒予防	講師:佐藤かなみ副施設長 ノロウイルスの特徴、症状、感染経路、予防4原則、感染予防対策基本嘔吐物の処理について演習を実施			
11月					
15・17日 2日間	身体拘束廃止研修	講師:佐藤かなみ副施設長 老人福祉法第33条・清光園基本理念・身体拘束がもたらす弊害、緊急やむを得ない場合の対応(3つの要件) 身体拘束を行う場合の説明、記録について			
12月					
16.18.19日 3日間	理念研修パート2	講師:小田島英憲施設長 理念について解説、理念の実現へ向けてどう取り組むか、自立支援を進めるために何をするかを講じ、理念にも届いたケアの実践を訴えかけた。			
1月					
19~23日 5日間	看取りケア研修パート2	講師:小川弘平チームリーダー 終末期の援助と事例検討			
2月					
16・17日 2日間	車椅子シーティング	講師:藤岡 淑恵看護師 シーティングとは、高齢者施設における座位姿勢の崩れについて			
ユニットリーダー主催研修				外部講師による内部研修	
4月	個別ケア	講師:高泉翔太ユニットリーダー	参加76名	9月26日	講師:太田・菅原様 (株)光洋
5月	報連相	講師:高泉沙織ユニットリーダー	参加70名		
6月	接遇	講師:竹田由香チームリーダー	参加95名		オムツのあて方
7月	コミュニケーション	講師:下村一歩チームリーダー	参加32名	12月18日	講師:橋本弘史先生
8月	認知症ケア(入浴)	講師:山崎まなみチームリーダー	参加11名		メンタルヘルス講習会
10月	記録について	講師:佐藤美加子チームリーダー	参加13名	4・6・8・10・2月(年5回)	
11月	知的障害について	講師:小川弘平チームリーダー	参加18名		講師:山形薬剤師
12月	生活支援	講師:佐久間竜弥ユニットリーダー	参加15名		(株)アインファーマシーズ
1月	24時間シートについて	講師:里見賢一ユニットリーダー	参加40名		薬の勉強会
2月	記録の視点	講師:佐藤かなみ副施設長	参加63名		

(7) グループホームまどか実績

	地域密着型介護料収入	稼働率	平均要介護度	平均年齢
平成 26 年度	57,660,640 円	95.2%	2.8	87.0 歳
平成 25 年度	60,027,020 円	99.6%	2.6	87.4 歳

(8) グループホームまどかの重点目標 (管理者 黒川由香里)

① 地域との交流機会の強化

- ・ 主な地域行事への参加状況～桜まつりの見学。地域のラジオ体操への参加。町内会の盆踊りへの参加。交通安全啓発活動として路上での旗振りを行った。
- ・ グループホームで行った、もちつきや避難訓練では、家族や町内会、関係機関団体の協力を得ることができた。
- ・ 日常的には、買い物のほか、理美容室や定期受診による外出も増え、閉じこもりがちであった生活が少しずつ改善されてきた。
- ・ 看板を新たに駐車場入口付近に設置したところ、様々な問い合わせをいただくようになった。

② 利用者本位のサービスの実践と人材教育

- ・ 月に一度、内部研修を実施した～「グループホームの役割」「認知症についての理解」「ケアプランとアセスメント」「個別支援」「接遇」等

③ リスクマネジメントの徹底

- ・ 認知症利用者の課題解決へ向けて「ひもときシート」を用いてリスク特定、リスク分析を行った。
- ・ 日中と夜間帯を想定した避難訓練を実施した。

④ 社会資源であるグループホームの有効活用を目指し、稼働率を 98%以上とする。

- ・ 夫婦で入居予定の方が、キャンセルとなり、稼働率が 95.2%と低下した。
- ・ 空室の有効活用として、「短期利用共同生活介護」の認可を受けた。
- ・ 低所得者層への入居対策として、利用料金の見直しを行う。近隣のグループホームの料金を勘案した上で、「居住費」と「光熱水費」を値下げした。

5. 在宅部門

(1) 清光園居宅介護支援事業所実績

	総件数					請求額 (千円)	
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
4月	78	33	25	10	6	4	918
5月	76	34	23	10	6	3	880
6月	74	31	23	11	6	3	856
7月	74	30	24	11	6	3	868
8月	73	32	23	9	6	3	1,075
9月	79	31	27	10	8	3	1,164
10月	74	31	24	10	5	4	1,088
11月	85	31	26	18	6	4	1,274
12月	78	30	25	12	7	4	1,159
1月	74	30	25	11	5	3	1,088
2月	75	31	24	11	6	3	881
3月	73	31	24	9	6	3	847
	76.08						12,105

※市からの委託事業として・・・(年間) 介護予防支援業務 37件 認定調査 7件

(2) 清光園居宅介護支援事業所の重点目標 (管理者 佐藤克美)

- ① 主任ケアマネジャーを中心に、支援困難ケースでも適切に支援ができるように体制を整備する。
 - ・研修計画を策定～職員を外部研修に13回、特養の内部研修に3回参加させ、人材育成を図った。
 - ・事業所内で情報を共有する仕組みとして、週に1度、情報会議を開催した。
 - ・情報会議で、困難事例を検討～3件

- ② ケアマネジャー一人平均の利用者数を段階的に30人とする
 - ・新規利用者は11月までに32件あり、利用者数は11月で85件となった。しかし、翌月に老健施設への越冬入所や特養への入所があり、78件と下降した。
 - ・職員の退職により、2月から2名体制となる。ケアマネジャー一人当たりの担当利用者数は37件となった。(2月3月の実績)

(3) デイサービスセンターすずらん実績

	居宅介護料収入	居宅介護料収入（予防）	稼働率
4月	1,400,277 円	226,062 円	68.0%
5月	1,368,370 円	245,511 円	65.2%
6月	1,357,557 円	202,572 円	63.8%
7月	1,518,213 円	148,428 円	62.2%
8月	1,422,172 円	148,428 円	56.8%
9月	1,399,290 円	109,584 円	60.9%
10月	1,198,287 円	148,428 円	83.9%
11月	1,216,024 円	187,272 円	85.0%
12月	1,440,340 円	187,272 円	93.9%
1月	1,416,739 円	187,272 円	90.0%
2月	1,428,765 円	187,272 円	98.6%
3月	1,578,106 円	187,272 円	100.0%
	16,744,140 円	2,165,373 円	77.3%

(4) デイサービスセンターすずらんの重点目標（管理者 鈴木聡）

- ① 利用された方が少しでも元気になるように支援し、利用者から居心地の良い場所だと言われるようなデイサービスを目指す。
- ・職員教育として、思いやりや気配りなどの大切さを職員に伝えた。
 - ・月に1回程度、昼食を職員で手作りした。
 - ・ラーメンやチャンチャン焼きなどは、利用者と一緒に作った。
 - ・利用者と共に畑作業を行い、スイカやトウモロコシを収穫した。
- ② 重度化した利用者でも対応できるようになる。
- ・車椅子利用者の受入～2名
 - ・うち1件は、癌を患い自宅での入浴が困難だったため、入浴目的で利用された。
 - ・送迎での移乗介助や、入浴介助の方法について職員同士で学習した。
- ③ 段階的に利用者を獲得し、最終80%の稼働を目標とする（平均稼働率75%）
- ・26年度当初、利用当日になってのキャンセルが全体の15～20%あり、稼働低迷の要因であった。
 - ・10月より利用定員数を15名から10名へ変更した。
 - ・キャンセル待ちの利用者を獲得したことで、突然のキャンセル発生にも対応することができ、3月には稼働率100%を達成することができた。

(5) シルバー共同住宅陽光実績

	事業収入	入居者数	入居稼働率
4月	1,134,210円	16名	88.9%
5月	1,206,300円	16名	88.9%
6月	1,232,820円	16名	84.4%
7月	1,200,360円	16名	88.4%
8月	1,184,300円	16名	88.9%
9月	1,204,650円	16名	93.1%
10月	1,192,220円	16名	88.9%
11月	1,183,420円	16名	88.9%
12月	1,170,220円	16名	88.9%
1月	1,330,240円	18名	98.2%
2月	1,315,060円	18名	100.0%
3月	1,342,460円	18名	100.0%
	14,695,260円		87.4%

(6) シルバー共同住宅陽光の重点目標（相談係長 渡邊芳賢）

① 制度上、構造上での不自由さの解消

- ・12月に入居者とシルバー人材センターや居宅介護支援事業所、ヘルパー事業所などの関係者団体の皆さんと食事会を開催した。和やかな雰囲気の中、日々の暮らしの中での課題について改めて話を伺った。
- ・2月に再度食事会を開催～建物周囲の舗装計画を提案する。

② 生活相談の充実と地域包括ケアの実現

- ・デイサービスセンターの職員が身近な相談者としての役割を担っている。
- ・地域の包括的な相談窓口として、特養の生活相談員が専門的な相談を受けている。
- ・地域社会との交流と社会参加～入居者同士の交流の機会として食事会を企画したほか、特養での麻雀大会や、南清水沢老人クラブの食事会などの情報を提供した。
- ・車椅子利用の方であっても、24時間巡回型訪問介護を利用することで、陽光で暮らせることができた。

③ 入居率100%を目標とする

- ・1月に2名の方が入居され、入居率100%を達成した。
- ・陽光への申込み、待機している方は3名（市内2名、札幌1名）